■住民グループリーダー研修事業/事業報告

日　時：2007 年 2 月 16 日（金）10:00 から 16:00

場　所：吉田公民館

参加者：参加者 32 名

【研修内容】

１．専門家による講話

「体験型観光の現状とその将来」高知県幡多広域観光協議会　土居　敬氏

（1）高知県西南部「幡多地域」における体験型観光推進事業について

①形態

高知県西南部「幡多地域」6 市町村で構成する「幡多広域市町村圏事務組合」からの補助金による任意運営団体

②構成団体

幡多 6 市町村

（四万十市/宿毛市/土佐清水市/黒潮町/大月町/三原村）

幡多 4 市町村観光協会

（社団法人四万十市観光協会/社団法人宿毛市観光協会/社団法人土佐清水市観光協会
大月町観光協会）

③協力団体

幡多広域市町村圏事務組合/高知県商工労働部観光振興課/財団法人高知県観光コンベンション協会

④役員体制

会長（社団法人四万十市観光協会会長）（非常勤）

副会長　2 名（非常勤）

監事　　2 名（非常勤）

事務局長 1 名（非常勤）

事務局員 1 名（常勤プロパー職員）

(2) 山・川・海　体験学習探検図鑑について

①提供する一つ一つのプログラムの質や付加価値の向上

②地域独自のオリジナテリィーの創出

③人と人とのつながりを生む

④伝える方、伝わる方の両者の意識が高まり
地元への「自信」「愛着心」「誇り」につながる

⑤窓口の一本化

(3) 推進事業の課題と問題点

①地元の資源や人材の発掘

地域資源を地域住民の方々は当たり前すぎて分からない。
都市住民から見ると田舎の生活そのものが非日常的で見るもの全てが新鮮である
今ある、出来る事から考える
地域に「誇り」「こだわり」などを持っている“人”はいるか？
全てにおいて「諦め」や「思い込み」「ない」は無いか？

②継続出来る組織や仕組みづくり

行政、コーディネーター組織、民間団体等の連携とそれぞれの役割り
単なる観光イベントの繰り返し

(4) 取り組みと事業概要

①資源と素材探し

②人材の発掘

③質の高いインストラクターや体験リーダーの養成

④質の高い体験プログラムの提供

⑤情報発信、収集とプロモーション活動

⑥地元へのフィードバックとコミニュケーション

(5) プロモーションツールについて

（ポスター）修学旅行で幡多を訪れる子どもたちの教室に事前に貼ってもらう
期待感を醸成する

（パンフレット）保護者にも子どもたちが修学旅行で行く幡多地域を知ってもらうために子ども一人ひとりに配布。
体験を羅列するだけではなく、幡多地域の自然や人が伝わるものを作成
現在、Vol4 の制作に向けて情報収集中

（アクセスマップ）余所の地域から来るバスの運転手さんや添乗員さんに渡す
実際に現場まで来ることのできる詳細な地図
自分たちの思い(視点)だけでつくらない
利用する側（旅行会社や実際に幡多に来る人たち）がどのような情報を必要としている

のかをリサーチして制作する=旅行会社の協力を得て作成

(6) 反響と成果

① 雇用創出

かつおのたたき作り体験・人気があり人手が足りない状況

② 一次産業、二次産業従事者の副収入源

③ 地域経済への波及効果

資金、精神両面への影響がある

（精神面）生きがいづくり

子どもたちと関わることで元気をもらう

地域で暮らすことに自信を持つ=地域を見直す

④ 地域ブランドの市場開拓

修学旅行にきた子どもを口コミのコミュニケーターとして使う

修学旅行が終わってから、親に話す「おいしかった」

↓

「次は一緒に行こう!!」

⑤ 行政との横のつながり（官民の信頼度 UP）

体験型観光には、農林水産、観光、教育委員会など行政の縦割りでは解決できない様々な内容が詰まっている。

体験型観光をきっかけに行政と民間が協力し合う体制ができつつある。

市町村レベルの体験型観光の組織づくりを実施。(研究会の設立)

従来であれば、一本釣りの人選しかできなかったが、組織があることで、組織に振ることが可能になる。

組織の構成員もそれぞれがどんなことをやっているかが明らかになってきた。

例えば、グリーンツーリズムの講演会といえば

(従来)農林関係のみに告知

(現在)農林関係に止まらず、観光や教育委員会など関連する部署やグループに告知

⑥ 修学旅行の受入実績

修学旅行の受入実績(小、中、高、専門)

	学校数(人)	人数(人)
平成14年度	16	1,629
平成15年度	21	2,064
平成16年度	19	2,078
平成17年度	32	4,451

〈平成 17 年度を例にとると〉

1 回の修学旅行で 2 泊

のべ 8000 泊×@8,000 円（修学旅行の 1 泊の単価）=¥64,000,000-

プラスお土産料・体験料　平成 17 年幡多地区に落ちたお金　¥120,000,000-

地元の旅館・ホテルからの反響が大きい = 体験型観光の新たな支援者(担い手)

(7) 体験型観光が地域にもたらしたもの

子供たちにとって修学旅行という一生に一度しかない思い出の１ページに自分達が係った喜びと出会い

将来、大人になった時に思い出し、再びこの地に訪れるであろうと思う気持ち

そして、また新しい出会いとの期待・・・

つまり“お金”では買えない人と人との出会いや繋がりがあり、自分自身への「気づき」「自信」「誇り」を思い出させてくれる「きっかけ」となった。

農業体験（田植え）収穫時にオリジナルパッケージで郵送
家族で食べてもらう= オリジナルブランドの醸成
途中の発育状況をブログでレポート

(8) 今後の期待（方向性）について

体験型観光は全国各地で展開されているが「ほんもの」を提供している所は少ない。
地域性を出し、“ここでしか出来ない”“味わえない”ものを見出す
続、継続を持つ
受入組織および体制の強化

(10) 幡多地区の体験型観光推進事業計画

① 人材の発掘、確保、育成

まず自分達の地域において“やる気”のある人がいるか？
市町村、団体、個人的付き合いなどアンテナを張り、情報収集を行う
人物に会い、この事業への趣旨を理解していただき講習会などへの参加を促す

② 資源の発掘調査

上記の情報をもとに、人物に会い、現場に出向き商品化が可能か調査
各地域の産業、文化、歴史を含め、ほんの些細な事への調査
各地元の子どもたち地元の不思議や発見の聞き取り調査
= 子どもの意見は新鮮、新しい目線がある

③ 体験プログラムの商品化

商品化にする為にはどの様な条件が整っていなければならないか？
マーケットがそれを望んでいるか？
コーディネーターが専門的ノウハウを提供しながら商品化を図る

④ 受入組織強化

コーディネーター組織の体制強化
コーディネーターの人材発掘と養成
体験プログラム受入団体内、グループ内の意思疎通

⑤ インストラクター養成

質の高い体験プログラムを提供出来るための養成講座開催

登録制インストラクターの拡大

全国で開催される研修に参加させ他の地域の現状などの把握

= 他地域の状況を知ることで自分たちの地域のメリット、デメリットが見えてくる

⑥ 情報発信・収集

旅行代理店への情報提供

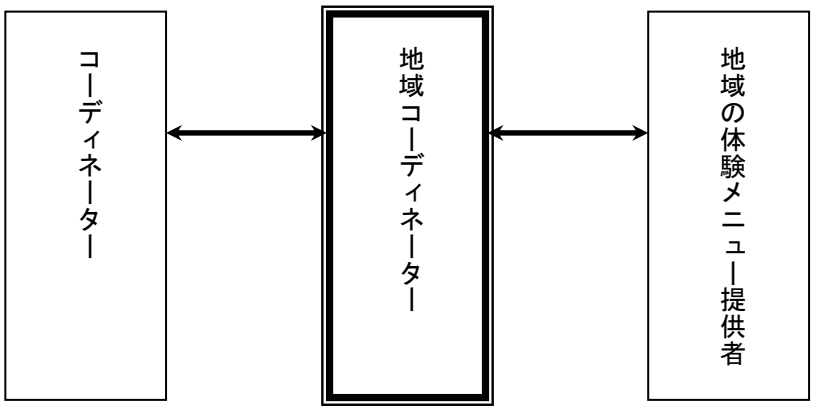
広報媒体やホームページを活用したＰＲ展開

旅行代理店やマーケットで得た情報の地元へのフィードバック

■質疑応答■

質問「小グループの個人旅行の対応についてはどのように考えているか？」

現在、幡多地域では個人旅行の対応はしていません。修学旅行の場合、ある程度スケジュールが確定するが、その場その場で動きの変わる小グループを地元で本業のある人たちが体験の提供者となる体験型観光をコーディネイトするのは困難な場合が多い。今後、小グループを今後受けていくためには、地域コーディネーターの役割が重要になってくると思う。新しい仕組みづくりが必要。



愛媛県南予地方の場合（濱松係長のお話から）

- 愛媛南予地方の場合は、宿泊施設に修学旅行を受け入れるキャパシティがない
- 小グループ、個人旅行が中心となる
- 地域コーディネーターの役割が重要になってくる
- 今回の研修会に参加されたみなさんは、既に体験メニューの提供者
- 自らのグループのことから、一段階広い視野を持った地域コーディネーターへ

◆質問「地元のおじさん、おばさんを事業に巻き込んでいくノウハウを教えて？」

まずは一本釣りです。その時、どんな人を一本釣りしていくのかといったポイントとしては、子どもや人と接することが好きな人、地元の小学校のゆとり教育なので関わっている人などから攻めていくことが多かったです。漁業で言えば、お金の面で折り合いが合わない場合が多い。また、漁業についてはエリアの問題もあるので個人ではなく、漁協に対してアプローチする方がいいのかもしれません。また、相手が子どもであるため海や川での体験というのは、危険な場合もあるので、それに対する準備に時間を費やす必要があるのではないか。

◆ 質問「たたき体験が人気のようですが、その理由は？」

リクエストも多い状況です。人気の理由はというと体験に行くと地元のおいちゃん、おばちゃんが圧倒的なパワーで歓迎するということ。最終的には体験の中身もさることながら、人の力が大きいと思います。

◆ 質問「地域コーディネータというのはどのような人がなっていますか？」

地区によって様々な人がなっています。地元にある既存の組織のリーダーさんがなっているケースが多い。また、体験を提供しているグループのリーダーさんという立場の人もいます。受入研究会という勉強会があって、その中で地域コーディネーターになる人をつくっていく（育てていく）というようなことをしています。現在のところ、コーディネーターという仕事について報酬が支払われる仕組みになっていないので、その点は今後検討していかなくてはならないと思う。

◆ 質問「最近できた新しいメニューを教えて？」

現在、制作中のメニューなんですが、かつおのたたきづくりが人気ですが、それなら、カツオをどうやって採るのかという話になりました。カツオを採る道具に「カブラ」という漁具がありまして、それは漁業者の方しか知らないようなものですが、それを自分たちで作ろうというメニューを組み立てている最中です。地元の伝統文化を守っていく意味でもつながりのあるおもしろいプログラムだと思います。

◆ 質問「田植えしたお米を送るという話がありましたが料金はどうなっていますか？」

旅行代金に含まれています。もし、採れなかったらということもありますが、ここの部分は裏話ですが、周囲に同様のお米はたくさんありますので調整はとります。

２．参加者からのプレゼンテーション

この時間は、今回の研修の最後になります。自分たちの活動を PR してください。
自分たちの活動の中で足りない点をここで補い合えるような関係づくりができたらいいと考えています。

そのためには、「自分たちのやっていることを伝える」「人の言ってることを聞き取る」という作業をしてください。これからの活動のきっかけづくりになればと思います。

（地域の課題解決に向けて）

提供してほしい

・魅力を高めるための体験を提供して欲しい
・観光は地域産業である。
　地域の素材を組み合わせて、地域をコーディネイトすることが必要
・行政や観光協会にはいろいろな情報が集まる(集まることが大事)
　みんなで集約する

・ボランティアガイド = 育てていく仕組みが必要
・茅を手に入れるためのボランティアを募集中
・茅の置き場を募集中
・映画のロケの協力ができる
・商品開発の力が必要
・助成事業を作り出す
・勉強会の機会を提供する

提供できるもの

・作ったものを売りたい
・体験のスキルを持っている(人材はある)次にはその活用
・農業は作って楽し、売って楽し、そして交流して楽し
・グリーンツーリズ、農家民泊の可能性を検討中
・地域の中には光輝くものがある
・空き家がいっぱいある→活用を考える
・主要メンバーの高齢化が問題→世代交流、担い手を育てる
　いくつかの団体が連携して対応する必要がある
・組織づくりに取り組む→NPO 法人の取得

３．本日の振り返り

4 日間の研修をみなさんの協力で終えることができました。ありがとうございました。「みなさんの活動の集大成が観光である」という事が出てきました。継続的な活動が重要です。そして、みなさんの活動は地域の課題を解決する活動につながる活動だという意識を持ってもらいたい。コミュニティビジネスという言葉がありますが、例えば、着物の着付けは昔であれば、お金になるものではなかったと思います。でも、今、その価値を改めて見直すことで価値あるサービスになりつつあります。

「行政は縦割り」という言葉が出ましたが、地域はその点では総合性を持っています。反対に行政をうまく使ってください。公益性によって行政も応援してくれます。先に出てきた地域の課題解決につながる活動です。自信をもってすすめてください。